



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

● 実践推進校における効果的な少人数指導の研究 ●

三重県教育委員会では、子ども一人ひとりにきめ細かな指導を行うため、県内の小中学校107校を実践推進校に指定し、効果的な少人数指導の実践的な研究と検証を行っています。令和元年度は以下のような研究内容を設定し、研究を進めています。

【小学校国語 ティーム・ティーチング】

「書かれていることを正確に読み取る力」や「根拠に基づいて自分の考えを書く力」を高めていく指導方法及び指導にあたっての効果的な役割分担の工夫

【小学校理科 ティーム・ティーチング】

実験等の結果について「考察する力」を高めていく指導方法及び指導にあたっての効果的な役割分担の工夫

【算数・数学 習熟度別少人数指導】

「問題解決の方法を数学的に説明する力」を高めていく指導方法及び各コースの習熟に応じた課題設定や授業展開、単元計画、教材・教具の効果的な活用等の工夫

年度末には、実践推進校の実践事例を「効果的な少人数指導推進ガイドブック Vol.3」にとりまとめる予定ですので、ぜひご覧ください。（「Vol.1とVol.2」は「授業改善サイクル支援ネット」からダウンロードできます。）

習熟に応じた授業展開の工夫における実践事例



● 菰野町立朝上小学校

・単元のはじめに、子ども一人ひとりの様子やこれまでの学習内容の理解度を把握し、次時からの習熟度別指導の授業展開に生かしています。

4年
「わり算の筆算」
の学習では…

基礎コースでは、既習内容の定着を図る取組を行い、段階的に指導する授業を展開

<基礎コース>

・基礎的な計算が定着するよう、導入で、3年生で学習したわり算を復習してから本時の学習に入るように毎時間の授業を展開

発展コースでは、対話的な活動を多く取り入れ、互いに確認しながら捉えさせる授業を展開

<発展コース>

・検算することを毎時間取り入れ、筆算の定着を図る
・除法の意味を捉えさせるよう、口を使った立式をさせて、毎時間の問題を考えさせる授業を展開

5年
「速さ」を比べる
学習では…

<基礎コース>

・数値を空欄にした数直線図のプリントを使い、数をあてはめながら数量関係を確認して速さを比べる授業を展開

<発展コース>

・問題から読み取った数量関係を、数直線図に表し、ペアやグループで確認しながら数量関係をつかむ授業を展開

● 鈴鹿市立牧田小学校

・5年「合同」の単元において、基礎コースでは、具体物を使って説明すること、発展コースでは算数用語や記号を使って説明することを大切にしています。

<基礎コース>

子ども一人ひとりに、1つの図形（長方形、正方形、正三角形）を折ったり切ったりしてできた2つの図形の辺や角を重ねながら合同について考えさせる。また、グループの中で、対応する辺や角を指し示したりそれらを実際に動かしたりして説明させることにより、辺や角に着目させ、合同の定義の理解につなげる。



<発展コース>

2つの図形において対応する辺や角に着目させ、自分の考えたことを算数用語や記号を使い、合同について考えさせる。また、その考えをグループで確認し合い、さらに、全体で説明させることにより、合同の定義の理解につなげる。

基礎コースで、実際の活動を根拠にして説明させる

発展コースで、算数用語や記号を使い説明させる

「解けなかった子が解けるように、解ける子が他の考えでも解けるように、子どもの学習状況に応じてやり方を変えていくことが大切です。」

12月の授業改善研修会での文部科学省 笠井調査官の講義より

授業研究（校内研修）の推進に向けて

～ 来年度の取組に向けて準備を始めましょう！ ～

1月から3月にかけては、1年間の取組を振り返りをもとに、来年度に向けての改善策及び取組を協議する時期です。今年度行った取組について、みえスタディ・チェックや学校アンケート等の結果を活用し評価を行い、来年度の方向性を全教職員で共有しておくことが大切です。

そこで今回は来年度の取組に向けた準備を進めるためのポイントを紹介します。ぜひ各校での研修等で活用してください。

ポイント1 育成すべき資質・能力を明らかにしましょう！

新しい学習指導要領では、育成すべき資質・能力が3つの柱で整理されています。子どもたちにつけたい資質・能力について、全教職員で協議し、共有しましょう。

また「研究テーマ」は、「学校教育目標」の達成に向け、子どもたちの実態をふまえ、つけたい力やめざす子どもの姿を考えて設定しましょう。

学んだことを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力、人間性など

実際の社会や生活で生きて働く
知識及び技能



未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力など

育成すべき資質・能力「3つの柱」

ポイント2 カリキュラム・マネジメントを確立させ、資質・能力の育成をめざしましょう！

カリキュラム・マネジメントの3つの側面

- ① 学校教育目標を踏まえた**教科等横断的な視点**で、目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列する。
- ② 教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連の**PDCAサイクル**を確立する。
- ③ 必要な**人的・物的資源**等を、地域等の外部の資源も含めて効果的に活用する。

教科等横断的な視点での取組例

新しい学習指導要領で目指す学びを体感！
オリンピック・パラリンピックのメダルをつくるなら

新しい学習指導要領では、社会に出てからも学んだことを生かせるような学校教育を目指します。各教科等を通じて得た力は、将来どのように生かされるのでしょうか？
「オリンピック・パラリンピックのメダルづくり」というテーマで例を示してみました。



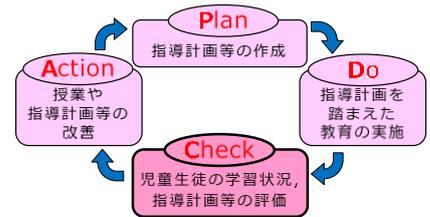
出典：「文部科学省ホームページ 平成29・30年改訂学習指導要領のくわしい内容」

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を！

新学習指導要領のもとで実施する学習評価

○学習評価は・・・

「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、**教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする**ためにも、重要です。



学習評価についての課題 ～こんな評価をしていませんか？～

「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」^{*}では、現行の「関心・意欲・態度」の観点について、「学校や教師の状況によっては、**挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど**、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない」といった課題が指摘されています。そのほかに、「教師によって**評価の方向が異なる**」「評価のための記録に**労力を割かれて、指導に注力できない**」などといった課題も指摘されています。

^{*}平成 31 年 1 月 21 日 文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/01/1412838.htm

○学習評価の改善の基本的な方向性

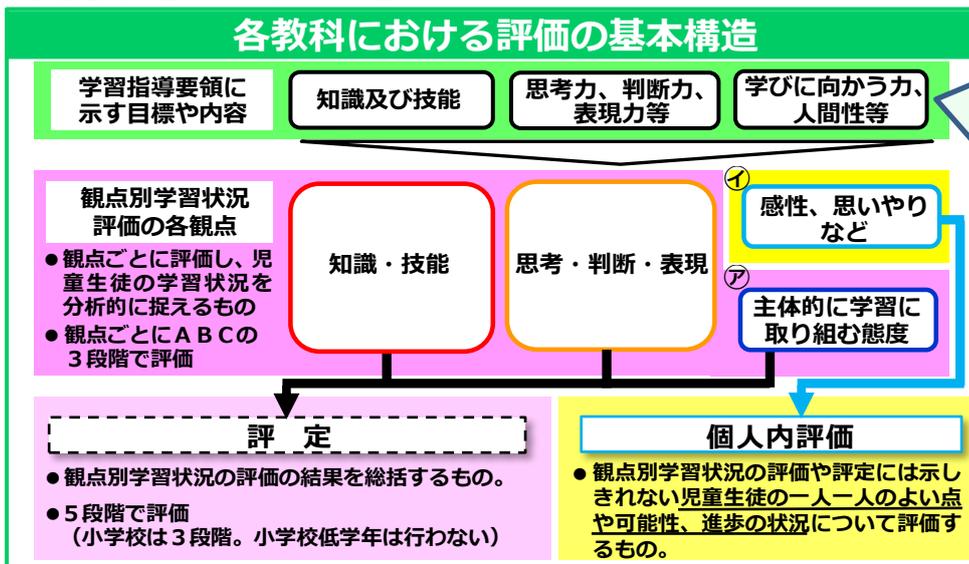
課題等を踏まえて、学習評価の改善の基本的な方向性が示されています。

- ① **児童生徒の学習改善につながる**ものにしていくこと
- ② **教師の指導改善につながる**ものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、
必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと



○学習評価の基本構造

平成 29 年改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の 3 つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「**知識・技能**」、「**思考・判断・表現**」、「**主体的に取り組む態度**」の 3 観点に整理されています。



「学びに向かう力、人間性等」には、

- ㉗ 「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取ることができる部分と
- ㉘ 観点別評価や評価になじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取部分があります。

^{*}「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」

学習評価に関するさらに詳しい情報はコチラで ↓

- 平成 29・30 年改訂の学習指導要領下における学習評価に関する Q & A
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/qa/1421956.htm
- 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について (通知)
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1415169.htm
- 「学習評価の在り方ハンドブック」(各校にも 3 部送付されています)
<http://www.nier.go.jp/kaiatsu/shidousiryu.html>

◎ 学習評価については、「三重の学-Viva!! (まなびば)」3・4月号でも掲載する予定です◎



「わかる！できる！好き！楽しい！」が実感できる取組をめざして

七保小学校では、「みんなを大切にして 学びを深め たくましく未来を切り開く子の育成」をめざして、日々の子どもたちの様子を把握・共有しながら、学校全体で教育活動を進めています。

本年度は「子どもたちの弱みの克服」「子どもたちの『学びに向かう力』を育成するための場づくり」を重点として、取組を進めています。

子どもたちの弱みの克服にむけた取組

★ 客観的データに基づく児童の学力・学習状況の把握と改善策の検討（大紀町学力向上委員会との連携）

- ・ 全国学力・学習状況調査&みえスタディ・チェックの実施。
- ・ 全教員がチームに分かれ採点・分析。→ 校内研修会で共有。→ 授業改善・学習改善の方向性を見直し。

おすすめ 組織的に取り組む基盤づくり&授業研究の方向性の共有

★ 七保式 条件作文提示システム 全学年で実施

- ・ 全国学力・学習状況調査等の記述式問題等で力を十分発揮できることをゴールとした、「条件に合わせて目的に応じた文章の要約をする力」を楽しく段階的に育成するための、七保小オリジナルのシステム。

システムの活用術やコツ（無理なく進める技がいっぱい）

- 低学年から高学年へ、段階的に無理のない条件の設定。
- 条件に合った文章を書く場面を各教科で意識的に設定。
- 教科だけでなく朝の会、学活、行事の振り返りでも設定。
- 書くための情報の提供。「振り返りで書く」場面では、学びの軌跡が読み取れるよう板書等を工夫。また、「校外の体験活動について書く」場面では、常に現地でメモを取り児童が主体的に情報収集を図れるように習慣づけ。
- 原稿用紙でなく普段のノートで文字数条件文を書くことで文書の量感が身につく、推敲作業にもつながる。

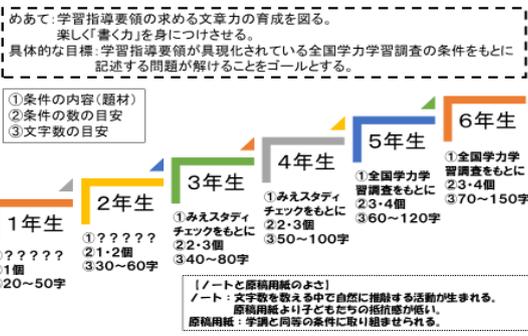
システムの運用の成果

- 条件に合った文を習慣的に書くことで、論理的な思考や、言語活動の充実にも効果が現れている。

★ 七保小「ドリーム・ドリルプリント」（略して「ドリ・プリ」）

- ・ 1年生から6年生までのオリジナル算数ドリル（全 200 枚）。「達成表」で自分の学びを自己管理。プリントごとに定められた「めあての時間」内の達成ができれば「クリア」、その半分の時間までにできたら「ハイクリア」とし、児童が自ら計測・記録し、向上心を持ちながら速く正確にできることを意識づけ。

七保式 条件作文提示システム



子どもたちの「学びに向かう力」を育成するための場づくりの取組

★ 七保っ子タイム（週2回 約15分間）「THE 学び場！」

- ・ 「自学の時間」と「学び合う時間」を大切に時間設定。
- ・ 特に、月2回は子どもたちの学びの習慣を縦横に展開するため、全校児童が「縦割り班」で学習交流。
- ・ 基本的には自学のスタイルをとるが、「縦割り班」では、低学年はわからないところを高学年に聞くことも可能。高学年は教えることで自分自身の学びを再確認する場に。「学びに向かう姿勢」を高学年が低学年に示す場にもなっている。

★ チャレンジタイム → 「学びに向かう力」がさらに UP !!

- ・ 水曜日の放課後を利用した希望制の補習タイム（対象3年生以上）。現在参加率は53%。
- ・ 学習内容は「ドリ・プリ」を中心に、総合問題や発展問題も。
- ・ 運営の秘密…短時間勤務のベテラン教員が中心となり管理と運営。同時並行で職員会議・研修会議を行うことも可能に。



児童自身で主体的に学びを進める！

高学年は低学年に教え、学びを再確認！



低学年は高学年に聞いて、学びを確認！

●●● 大紀町立七保小学校長より ●●●

「七保式 条件作文提示システム」等の実施を通して、日々の子どもの学びの様子に少しずつ変化が出てきています。書くことを継続することで、それ自体を楽しめる子が増えてきました。書く速さや量が向上することで、論理的な構成も意識できるようになってきました。記述式問題を解く際に「ねらいを意識して読む」こともでき始めていると感じます。

今後も、課題を克服する手立てとして、楽しく意欲を持って臨める工夫や場づくりをして、子ども自身が「学びに向かう力」をしっかりとつけられるように全校職員が一丸となって取り組んでいきます。